

美里町と伝統芸能のつどい



不動堂神楽

不動堂神楽は明治 30 年頃、迫神楽のうち、陸中黒沢尻の笹流を伝える志波姫村の南部笹流梅崎神楽（現在の大平神楽）より座長格の鹿野三代吉を師匠として招き、不動堂村西館の石塚与七郎・平吹慶之助らを中心に地元の若者が指導を受けて、不動堂神楽が誕生しました。



農閑期を利用して練習を積み重ね、地元の祭りはもとより近隣他町村にも奉納し、大いに賑わったと聞きます。また不動堂神楽の成立後、師匠であった鹿野三代吉は美里町南郷の佐野地区にも神楽を伝えました。不動堂の神楽師もまた他町村への神楽の指導に力を入れ、家子元之進・佐藤琢治による普及活動によって大正 14 年には大崎市鹿島台で深谷神楽が成立したと伝わっています。

戦争で後継者が減少し、長い間中断してしまいましたが、昭和 58 年に不動堂西館青年会が中心となり、当時最後の神楽師であった佐藤七右エ門、及川千次郎の指導のもと、現在の不動堂神楽を再興しました。平成 22 年 5 月 28 日には美里町無形民俗文化財に指定され、今なお郷土芸能の保存を目的として一層の研究、精進に励んでいます。

